

【目的】医療・介護等のネットワークを活用しながら早期診断・早期対応に向けた地域支援体制を構築することを目的とする		
【重点目標】 認知症ケアパスや認知症カフェの継続的な普及・啓発の実施、さらに認知症当事者が抱える課題やニーズ（要望）の把握と認知症サポーターの活動支援を行うことで、認知症の支援体制構築のための基盤作りに取り組む。		
【事業内容】		
項目	基幹型包括支援センター	医師会
（ア）医療・介護等の支援ネットワーク構築		
a　認知症の人が認知症の容態に応じて必要な医療や介護等のサービスが受けられるよう関係機関との連携体制の構築	①瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会が主催する研修会等へ参加し、他機関との関係性構築を図る。	①認知症初期集中支援チームとの連携の継続により支援体制の強化を図る。  ②医療介護関係者に、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の活動の周知を行なう。
b　市町村等との協力による、認知症ケアパスの普及等	①高齢者福祉課、医師会の認知症地域支援推進員と協働で認知症ケアパスの普及に努める。	①認知症ケアパスの普及を強化する。
（イ）相談支援・支援体制構築		
a　認知症の人や家族等への相談支援	①認知症の人や家族の相談場所として認知症カフェを開催する。（月１回以上）  ②瀬戸市広報、チラシ、認知症に関する講座、地域のサロン及び施設等で認知症や認知症カフェについての周知を広く行う。  ③相談支援のスキルアップをめざし、認知症のケア向上に関連した研修等へ参加する。	①相談窓口の周知拡大、普及活動を継続する。  ②認知症対応の介護サービス利用者と家族との関わりを持ち、困りごとなどの実態把握をする。
b　「認知症初期集中支援チーム」との連携等による、必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整	①認知症初期集中支援チームのチーム員会議に参加し、認知症に関する地域の実情や社会資源等の情報収集を行う。  ②認知症初期集中支援チームが抱えるケースについて相談、助言を行う。	①認知症初期集中支援チームとの連携を継続し必要な社会資源の活用 の調整を行う。  ②相談対応窓口の周知を行ない、チームオレンジ設置に向けて準備をする。
c　認知症サポーターの養成及び地域活動の支援等	<u>①市内の企業や全市的な団体等、地域型センターの領域を超える範囲の認知症サポーター養成講座を実施する。</u> <u>②認知症サポーターを、認知症支援を目的とした地域活動につなげるためのフォローアップ研修を開催する。</u> <u>③認知症サポーター養成講座等、認知症に関する講座やイベントでのサポーターの活動及び地域での認知症支援に関する活動について支援する。</u>	
（ウ）認知症対応力向上のための支援（関係機関等と連携し次の事業の企画・調整を行う）		
a　認知症疾患医療センターの専門医等による、病院・施設等における処遇困難事例の検討及び個別支援	①認知症疾患医療センターとの連携等について、他市町の取り組みや実情の情報収集を行う。	<u>①公立陶生病院との連携を強化し、処遇困難事例の検討及び個別支援を行う。</u>
b　介護保険施設等の相談員による、在宅で生活する認知症の人や家族に対する効果的な介護方法などの専門的な相談支援	①瀬戸市内における介護保険施設等と地域の関わりの実情、実態について把握する。	①介護サービス事業所の認知症に関しての困りごとを把握する。
c　「認知症カフェ」等の開設、運営に関する相談等の支援	<u>①既存の認知症カフェに定期的に訪問し、運営や課題等について把握するとともに、解決に向けた取り組みを検討する。</u> <u>②認知症カフェについて広く周知を行うとともに、開催のための相談や支援を行う。</u> <u>③市内の認知症カフェの運営やボランティア等で関わる方同士の情報交換、意見交換を目的にせとらカフェ意見交換会を開催する。</u>	①せとらカフェ意見交換会を開催し、認知症カフェの活発化、拠点を明確にしていく。（チームオレンジの協力体制づくり）
d　認知症ライフサポート研修など認知症多職種協働研修の実施	①多職種での意見交換や協働での研修等の場について検討する。	<u>①多職種研修会の開催により、専門職の認知症対応力の強化を図る。</u>
（エ）認知症及び若年性認知症の人が地域において役割を担い、「生きがい」をもった生活を送れるよう、高齢者等の希望に応じ、これまでの経験や残された能力を活かした社会参加活動等を行うための体制整備	<u>①認知症キャリアアップ講座、フォローアップ研修を受講したサポーターとともに認知症当事者が社会参加活動等を行えるような支援を検討する。</u> <u>②認知症カフェや施設に出向き、認知症当事者が抱える課題や希望等の把握と社会参加活動への取り組みについて検討する。</u> <u>③認知症家族会に参加し、家族の視点からの社会参加活動を把握・抽出し、体制整備に反映させる。</u>	<u>①　認知症及び若年性認知症の人が社会参加活動を行うための体制整備（チームオレンジ設置の準備）を進める。</u> <u>・地域の特性を生かした方向性の決定。</u> <u>・認知症サポーターステップアップ研修への協力。</u> <u>・コーディネーター、メンバー（協力者・協力団体）、設置場所、広報の方法等の検討。</u> <u>・認知症カフェとの連携推進。</u>